

12 2005
DECEMBER
No.37

大 南

contents

館長エッセイ 宇野 史郎	1
特集：新図書館開館 10周年を迎えて	2
news news	6
informations	8
シリーズ：利用者サービス④	8
staff column 加茂田 憲治	9
図書館日誌	10

館長エッセイ

まちづくり

近年、大学に入学する学生諸君について大学で何をしたいのか、何を学びにきたのかなど、いわゆる「問題意識」の希薄な学生が多くなったのではないかと、よく耳にする。果たして、そうなのか。

多くの学生は漠然としてではあるが、何かに挑戦したい、社会に貢献したいとの思いを持っているのではないだろうか。そして、自らの夢とともに探る相手を求めて入学してきたのではないだろうか。ただ、そうした機会と場になかなか出会えないだけなのではないだろうか。そんな学生一人ひとりの「思い」は、まちづくりへの参加をとおして地域社会と関わることで、自らを表現する機会と場にならないものか…。

まちづくりという言葉が盛んに使われるようになったのは、そんなに古い話ではない。1960年代から70年代にかけて、生活環境を脅かす都市問題などに対処して、住民や地域社会が主体的に解決しようとする活動として展開され、今日の多様で総合的なまちづくりに至っている。

本学の教員になる前のシンクタンクに在職して以来、筆者はさまざまなまちづくりに直接間接に関わって、35年近くになる。

もちろん、まちづくりと一口にいても、いろんな段階がある。なかでも、主として関わってきたのは、「まちづくり計画案をつくりあげる段階」や「そのための実状調査をする段階」などである。

長い間、まちづくりは行政（役所）がするものとされてきたが、今日では住民がどのようにして、まちづくりに参加・参画していくのか、まちづくりの担い手づくりが強く意識されるようになってきている。

まちづくりとは、よいまち、住みやすいまちをつくる活動のことである。そこには、終わりのないプロセスがあり、限らない夢もある。しかも、まちづくりには住民自らが主役になることが求められている。そのために、自らの権利（私権）の制限を伴うことを考慮しておかねばならない。それは私権と公的義務を調整する自主的ルールを伴うことになるからである。

まちづくり活動を通して、地域社会と直接に関わるなかで、学生自ら「自分を発見する」機会と場に結び付いていけないものか。これまでの経験を生かして、学生との協働のまちづくりに取り組んでみたいと考えている今日この頃。

宇野 史郎 (うの しろう)

商学部教授
 専門：都市流通とまちづくり
 平成16年1月から図書館長
 「これまでの経験を生かして、
 学生との協働のまちづくりに
 取り組んでみたい」



Uno Shirou

さらなる『知』の蓄積と活用をめざして

平成7年(1995年)4月に現在の図書館が開館して、今年で10周年を迎えました。躍動するキャンパスにありながら、静かな佇まいをみせる瀟洒な建物は、学生たちの変化を見つめながら時を重ねてきました。その歴史の1コマを、歴代館長の目とおして振り返ります。



開館準備を回顧する

商学部教授 梅村 勲

現付属図書館完成 10 年前を振り返り、完成・開館に尽力された方々を紹介し、その業績を顕彰しておきたい。

旧図書館(現大学院棟)が利用者の要望受入に支障をきたすようになり、創立 50 周年記念事業として新館建設が採用された。当時の北古賀理事長、岩野学長を初め学内外理事が尽力され、そして卒業生と地元企業などの協力を得て、本学園史はじめての巨費が投ぜられ、完成した。

設計は日建・九建設計(大阪・福岡)に発注された。同社は本邦有数の設計会社で、豊富な図書館設計の経験を有していた。本学図書館の小川永一課長をリーダーとするスタッフが、頻繁に協議を行い(勤務時間外)、同社の設計を指導した。スタッフの情熱がいまなお強く印象に残っている。

新館運営に関してもたびたび図書館委員会を開き、委員の先生方から有益な助言を頂いた。新消火設備の設置が、アルバイトスタッフによる深夜・日曜開館のネックになった。この障害は常勤スタッフの増員で克服された。この困難な人事手当では、村上靖彦図書館事務部長が総務部と粘り強い交渉

にあたられた。そして、優れた家具調達などで管財課の活躍があった。

工事を引き受けたのが九州最大のゼネコン佐藤組と地元の小竹組の共同事業体である。これに九電工、ダイダン、金剛などの電気、空調、書棚関係会社が協力された。そして夏の炎天下で汗を流した多数の建設作業員の現場作業が忘れられぬ。

以上の方々の貢献を顕彰する次第である。環境変化が著しい時代に対応して、さらなる図書館整備に関係各位が尽力され、利用者便宜の向上が計られるよう願っている。



新築工事が進む図書館(平成6年)

㊦

【建築経過】

熊本学園創立50周年記念事業の一環として建設された。従来の図書館(2号館:現在の大学院棟)の狭隘化と施設・設備の利便性を改善するために、平成5年5月着工し、平成6年11月に完成。翌7年4月1日に開館、西日本有数の規模をもつ図書館として始動した。

【施設】

鉄筋鉄骨 コンクリート地上4階・地下2階建て、延床面積 9,631.1㎡、総座席数は897席。閲覧室のほか各階の主な施設として、地下1階:AVホール、1階:新聞展示室、スタディールーム、2階:AVコーナー、研究個室、グループ学習室、点字室、3階:研究個室、グループ学習室、マイクロ資料室などを設置。



「松田道雄文庫」について

商学部教授 嵯峨 一郎

平成11年秋、私は図書館職員と一緒に、京都にある故松田道雄氏のお宅をたずねた。家そのものはごく普通のものだったが、中に入っておどろいた。1階の書棚はもちろんのこと、階段から2階にかけて本だらけである。その量もさることながら、さらにおどろいたことがある。松田氏は、ロシア革命に関する翻訳や鋭い社会批判で私の学生時代にもよく知られた人だったが、革新思想の先端にいた松田氏の書棚にれっきとした保守思想の本がズラリとならんでいたのである。「松田先生は実に奥の深い方だったんだなあ」と、感銘さえ受けたことを覚えている。

松田氏は前年に89歳ですでに亡くなっていた。蔵書そのまま放置すれば、古書業者がめぼしい本だけ持ち去って虫食い状態になりかねない。ご遺族としては耐えられないことだ。「一括して蔵書を引き取ってくれる所はないか」という話が本学図書館に持ち込まれ、さっそく丹野・花田両先生に見に行ってもらったところ、「すばらしい蔵書だ」とのことだった。

理事会のご理解も得られ、こうして松田氏の蔵書はすべて本学図書館に納められることになった。とはいえ、珍しい古文書を含む大量の本を分類するという、職員の苦労は並み大抵のものではなかった。「松田道雄文庫」として配架されるまでに軽く1年以上はかかっただろう。

せっかくだからお披露目をしようか、という計画がもちあがった。3階の部屋に陳列ケースを置き、解説パネルをつくり、直筆の書き込みがある本や手紙類なども見られるようにした。学外からも見に来られる方があり、私のゼミ生たちは神妙な顔をして見入っていた。

2万3000冊におよぶ松田文庫は今でも地下1階の奥

のコーナーに置かれている。学生の皆さんも、ガイダンスの時などにはぜひ松田文庫を眺めてみて欲しい。ところで、皆さんはこの蔵書を見て松田氏の本業がいったい何だったか当てられますか? 答えを言いましょう。「小児科の開業医」が正解です。



「松田道雄文庫」展を開催した3階グループ学習室(平成13年11月)

【新館の歴代館長】

- 梅村 勲 教授 (平成4年1月～平成7年12月)
- 中村 廣治 教授 (平成8年1月～平成9年12月)
- 嵯峨 一郎 教授 (平成10年1月～平成13年12月)
- 市来 努 教授 (平成14年1月～平成15年12月)
- 宇野 史郎 教授 (平成16年1月～現在)

【松田道雄文庫】

市井の小児科医、松田道雄氏の著書、蔵書、資料など約2万3千点を所蔵。医学、社会科学、文学、哲学、歴史など多方面にわたる。平成11年12月京都の松田邸より蔵書が運び込まれ、平成13年6月整理終了。同年11月「松田道雄文庫」展を開催。松田氏の著書は『私は赤ちゃん』、『私は二歳』など。



図書館をもっと利用しよう

経済学部教授 市来 努

私が館長職を務めたのは、平成 14 年からの 2 年間であった。松田文庫の導入など大きな仕事をされた嵯峨前館長の後を受けて、図書館について特段の理想や見識を持っているわけでもない私に、果たして務まるのかと内心不安を抱えての就任であった。結果的には、事実、任期中これといった仕事もできず、あまつさえ夜間開館や防火設備などに関する諸問題も未解決のままに、宇野現館長に引き継ぐことになり、宇野館長にはもちろん、教職員・学生の皆さんにはまことに申し訳ない仕儀であった。

図書館を内側から眺めることになって改めて感心したのは、蔵書の量・質、施設・設備などいずれの点でも学習環境として決して他に引けを取らないこと、および図書館業務に従事する職員の献身的な奉仕姿勢であった。もちろん、利用者の多様化する要求に即応することは至難の業であり、図書館サービスに対する不平・不満も少なくはなかった。しかし全体としてみれば、本学図書館が、ハード・ソフト両面にわたって、快適で便利な学習環境を整備していることは間違いない。

残念というか、もったいないと感じたことは、図書館が十分に利用しつくされているとはいえないことである。試験期ともなると図書館は立錐の余地もないくらいに賑わうのだが、他は、広い閲覧室も、折角の研究個室やスタディールームもがらんとしていた。他大学に先駆けて実施された 11 時までの夜間開館も、利用者の顔ぶれはほとんど決

まっていた。

短い学生時代を充実したものとするために、もっと多くの人たちに利用してほしいと切に思う。『大楠』36 号が図書館を活用している学生 4 名を紹介している。その一人 I さんは私の授業で、テキストの読み取りの的確さ、深さで目立っていた。彼女は述べている。「最も便利だと感じる点は、開館時間が長いことと貸し出し冊数が制限されていないことです。… 読みたい本は何冊でも借りることができるというのは、私にとって最大の魅力です。」あの優れた読み取り能力を身につけるうえで、図書館もその一助になっていたかと嬉しく思った次第であった。



遅くまで利用者が絶えない夜の図書館(平成 17 年 4 月撮影)

㊦

【図書館システム】

図書館のシステムは昭和 63 年に初めて導入され、その後更新を重ね、現在使用中のシステムは 4 代目。平成 16 年 4 月に LIMEDIO (RICHIO 社製) に切換え。データベース検索の web 対応など、利用者サービスの拡充が図られた。平成 17 年 11 月から携帯電話による蔵書検索も可能となった。

【図書館広報誌】

『大楠』: 図書館報。昭和 62 年 10 月「熊本商科大学・熊本短期大学図書館報」(B5 版) として創刊される。爾来、18 年間折々の情報を掲載。平成 16 年春号から現在のサイズに。年 2 回発行。また、毎月『としょかんニュース』を発行、行事予定や新着図書などのタイムリーな情報を提供している。

開館 10 年を振り返る.....

ハード面の充実とソフト面の改善

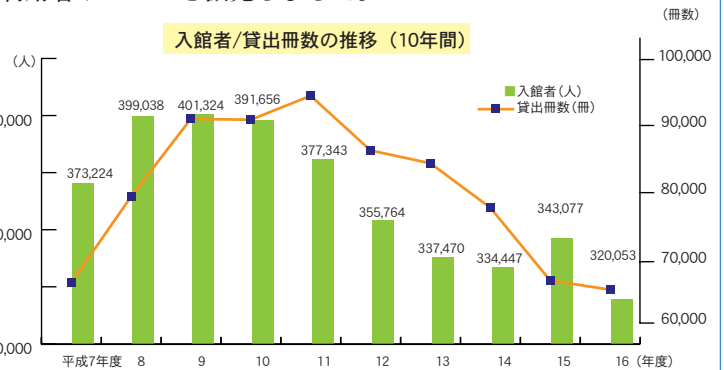
『第 2 回学生生活実態調査』(2003 年度)によれば、図書館の利用目的は「レポートなどの作成」が回答の 7 割を占め、次いで、「定期試験の準備」、「授業の予習・復習」となっており、授業との関連で図書館が利用されていることが伺えます。また、図書館への要望をみると「新刊書やベストセラー図書の増加」や「貸出期間の延長」、「視聴覚ソフトの増加」、「インターネット設備の充実」、「2 階、3 階の利用時間の延長」という順で、多くの要望が寄せられました。平成 7 年の新館建設により、施設や設備は飛躍的に整備され、資料整備や利用者サービスなどソフト面の改善もこの間、徐々に行われてきましたが、16 年 4 月からさらに、貸出制限(5 冊)を撤廃し、貸出期間も 1 週間から 2 週間へ延長、開館時間を延長し、開館フロアも広げるなど、要望に応じて利用者サービスを拡充しました。



旧図書館(現大学院棟):昭和38年から平成6年まで図書館として使用

入館者・貸出冊数とも減少傾向

資料の中核である蔵書数は新館オープン時の約 48 万冊から年々増加し、17 年 4 月現在、約 70 万冊を数えるまでになりました。図書館の活力を測るひとつの指標として、入館者数と貸出冊数が挙げられますが、開館年度の入館者数は約 37 万 3 千人、その後、9 年度の約 40 万 1 千人をピークに減少を続け、16 年度には約 32 万人となりました。一方の貸出冊数は 11 年度の約 9 万 5 千冊をピークに減少を続け、16 年度は約 6 万 7 千冊となっています。これは入館者数の動向とほぼ同じ傾向となっています。貸出冊数は 15 年度から 16 年度にかけて落ち込みが緩くなりましたが、これは貸出冊数の制限撤廃によるものと思われる。学生の学習支援をはじめ、利用者のニーズを的確に汲み取る組織的な努力が、いまもっとも必要とされているのかもしれない。



さらなる「知」の蓄積と活用を

これまで、基本的な図書資料の充実を図ることはもちろん、図書館システムの更新によるサービス改善、自習利用パソコンの増設、点字パソコンの導入、AVコーナー資料の充実、夜間や休日開館の弾力的運用など、まだ不十分な点はあるものの、その時々々のニーズに対応してきました。また、在学生、教職員のみならず、卒業生、一般市民にも利用の機会を設け、サービスの提供を行っています。

17 年 5 月の新入生図書館ガイダンス時に行ったアンケートによれば、全体的に肯定的な回答が多く、特に施設・設備については満足度が高いことが伺えます。しかし、「レファレンス」などのサービスがあまり知られていないという現状も見受けられます。

利用者一人ひとりの要望はそれぞれ千差万別ですが、今後も、利用者の意見や要望に耳を傾け、情報を発信しつつ、新たな要求に対応できるような取り組みができればと考えています。また、本学図書館が主な機能とする「学習図書館」・「研究図書館」・「保存図書館」の役割を果たすために、近年、飛躍的に増加しつつある電子資料の充実・提供はもちろんのこと、学習や研究のためのさらなる環境整備に努めていきたいと考えます。



四季折々の風情を見せる樹々に包まれた図書館

図書館実習生を受入れ

司書資格取得を目指す本学学生 25 名の図書館実習を、今年度も第 1 期（10 月 15 日～10 月 21 日）、第 2 期（11 月 12 日～11 月 18 日）に分けて受入れました。本学では司書資格取得のための課程が第二部を除く全学科に設けられており、図書館特論を選択した学生が例年この時期に実習を行っているものです。

初日は図書館の概要等の説明を受け、翌日から 2～3 名のグループに分かれ発注・受入業務から閲覧業務まで、各係での実務実習を行いました。各カウンターでは緊張の面持ちで利用者に接する実習生の姿が見られました。サービスを受ける側から提供する側に立って、利用者の目に見えない業務を体験することにより多くの発見があり、図書館への理解がより深まったようです。

利用者のための図書館を実感

商学科 4 年 中村 仁美

図書が利用者の手に届くまで、たくさんの段階があることを知りました。配架や棚整理、カウンター業務の他、利用者が普段目にするのしない図書館業務（選書、発注・受入処理、目録入力、装備、相互貸借の依頼・受付・送付処理など）を実際に体験でき、図書館の業務内容を詳しく知ることができました。また、コンピュータが様々な業務で導入されていることを実感しました。旧図書館や地下書庫に入る機会もあり、地下書庫ではたくさんの所蔵されている図書や雑誌の中から資料を探す練習をしました。

この他にも様々な業務を体験することができ、多くのことを学びました。図書館は利用者のことを考えて運営されていることが実感でき、これからも多くの人に利用してほしいと思いました。



4階目録作業室で

実習終了後は、「講義で学んだ知識が生きたものになった。実習期間はとても充実しており、多くのことを学んだ」「司書とは常に成長を求められる仕事だ」などの感想が寄せられました。

実習で学んだ様々な図書館業務

経済学科 4 年 平佐田 奈津

私は図書館での実習を終えて、講義の中だけでは学ぶことのできなかった「生の図書館の実態」を見ることができ、更に多くのことを経験することができたので本当に良かったと思います。

この実習では、一週間という限られた期間の中で受入係、目録係、雑誌係、閲覧係、レファレンス・視聴覚係という各部署を毎日ローテーションしながら実習を行っていきました。実習中はカウンター業務や選書作業、本の装備などなかなか普段では体験できないような事も体験することができました。また、普段は見えないような所で、利用者が使いやすいように様々な工夫がなされていることを知ることができたのも今回の実習の収穫のひとつでした。

学生懸賞論文応募状況

平成 17 年度の学生懸賞論文の受付がこのほど締め切られました。募集の対象は、学部学生のみ。全部で 7 点の応募がありましたが、今年度から認められた、グループによる執筆も含まれています。このあと 12 月上旬には入選作が決まります。（掲示および図書館ホー

ムページで発表）特選には賞金 10 万円が贈られます。

なお、入選者の表彰に併せて、12 月 14 日（水）図書館 AV ホールで論文作成にまつわるエピソードなどが発表されます。多くの方の参加をお待ちします。

公開フォーラム開催

11月5日午後2時から、図書館地下1階AVホールで日本図書館協会理事・事務局次長の常世田良氏を招き「まちづくりに貢献する図書館～情報拠点としての図書館へ～」と題した講演を開催しました。当日は一般市民や学内関係者など110名の参加がありました。本学図書館が主催となつて行う公開フォーラムは今回が初めて。

常世田氏は「ビジネス支援図書館」として有名な千葉県浦安市立図書館に長年勤務し、現在日本の図書館界においてその経験を生かした数々を提言。『浦安図書館にできること』などの著書もあります。

講演では、これまでの社会では個人レベルで情報収集する必要性は低かったが、今後日本が移行していく「自己判断自己責任」型社会の中では正確な情報が公平に提供されるシステムが必要であり、公共施設の中では最も敷居が低い公共図書館がその役割を果たさな

ければならないと指摘。現代社会のマスコミや出版流通、インターネットの限界を例にあげ、またアメリカの公

共図書館の状況、先進的な事例などを紹介し、途中10分程度のビデオ上映などもはさみながら公共図書館が担うべき役割を力説しました。また館種を越えた図書館ネットワークの充実も必要不可欠であると強調。参加者には図書館業務に携わる人も多く、これから先自分たちがおかれる厳しい情報環境の中で、図書館として何ができ何をすべきなのかという喫緊の話題に熱心に聞き入っていました。



講演する常世田良氏（11月5日 AVホール）

オープンキャンパス

7月18日、8月9日、10月22日の3回にわたり、本学のオープンキャンパスが開かれました。図書館では「ライブラリー探検」を実施。3日間を通して、約1,200名の高校生とその保護者の皆さんの見学がありました。館内を自由に見てもらい、図書や雑誌が豊富に揃っていること、パソコンを使って蔵書検索やインターネットでの情報収集ができることなど、学習や研究を行うために快適な環境が整っていることを知ってもらいました。高校の図書室とは違った機能や雰囲気

をもち、膨大な蔵書を擁する大学の図書館に驚く様子も見られ、「入学したらぜひ利用したい」との声もありました。



1階閲覧室で本を開く高校生

“ナイストライ” 受入れ

熊本市立帯山中学校2年生の職場体験実習（ナイストライ）が今年も行われ、本学図書館でも11名（男子7名・女子4名）の生徒を受け入れ、9月7日から9月9日の3日間、図書館での体験実習を行いました。生徒たちは、本学図書館が想像していたよりも大きく、図書の内容や蔵書数の多さに戸惑いを感じながらも好奇心を持って一所懸命に取り組んでいる様子が見られました。

最終日の反省会では生徒たちから、大学図書館が膨

大な資料を取り扱う仕事の大変さ、図書館で働くことへの職業意識の芽生え、図書に対する意識の変化など、多くの感想が出されました。

このナイストライは、恒例の“行事”となっていますが、「体験実習を通して、よりいっそう本に親しみをもってほしい」、「図書館への理解とともに利用者の立場からも、この体験を思い出して自分の将来の職業への可能性の発見に繋げてほしい」と受入にあたった職員は感想を述べていました。

有価証券報告書の製本終了

昨年度より実施しておりました3階フロアに配架してある有価証券報告書(一部上場企業)の製本がすべて終了しました。(平成15年度分まで)なお、平成16年度以降は冊子体の発行がありませんので、データベースでの検索になります。詳細はカウンターでお尋ねください。

文庫・新書コーナーの変更

「岩波現代文庫」が文庫新書コーナーに新設されました。これまで「岩波現代文庫」は必要に応じて購入し、一般図書に配架していましたが、今後は継続購入、一括配架になります。同文庫は、戦後日本人の知的自叙伝ともいえるもので、文芸、学術、社会の3つのジャンルからなり、背表紙はそれぞれ赤、青、緑に色分けされています。

また、これに伴い、これまで文庫新書コーナーにあった「東洋文庫」(約500冊)の場所を1階の一般図書へ移すことになりました。「東洋文庫」はアジアの古典、名著を集めたもので、現代語訳に解きほぐされたとても読みやすいものです。グリーン一色に装丁されている文庫本で、場所は1階特設コーナーの裏側になります。どちらも多くの皆さんの利用をお待ちしています。

携帯版サービスを開始

携帯電話から本学所蔵の図書・雑誌が検索できるサービスを開始しました。蔵書検索(図書・雑誌とも)は、複数のキーワードを入れることで絞り込み検索が可能となっています。新着雑誌・図書については、過去1週間以内に利用可能となった資料の簡略一覧が表示されます。図書の所蔵情報では所在・貸出状況の確認ができ、雑誌の場合、巻・号の所蔵状況・所在が確認できます。下記のURLに接続して、ご利用ください。

携帯電話の機種によっては、正しく表示されない場合がありますので、ご了承ください。

URL <http://www1.lib.kumagaku.ac.jp/limedio/i/index.html>

シリーズ 利用者サービス④

雑誌

2階フロアには和雑誌と中国語雑誌・韓国語雑誌を50音順に、ほかに国内の新聞の縮刷版、国内外の新聞約60紙を過去1年分、月別にまとめて配架しています。

3階フロアには外国雑誌をアルファベット順に、全国の大学の研究紀要を発行大学名の50音順に配架しています。また、有価証券報告書は平成16年度以降についてはデータベース検索のみになります。マイクロ資料室には、稀観本や雑誌・新聞のバックナンバーのマイクロフィルムやマイクロフィッシュを

保管しています。地図室には、1/25,000の地形図や掛地図、大型の地図帳等を配架しています。

各雑誌は棚の扉に最新版が、棚の中には過去1年分が入っています。それ以前のバックナンバーは地下書庫にありますので、雑誌請求票に必要事項を記入のうえ、カウンターに請求してください。なお、マイクロ資料室、地図室を利用される場合は2階のレファレンスカウンターで手続きをしてください。

なお、図書館のホームページからデータベース(学内限定のものもあります)



を利用して、雑誌記事索引・論文・新聞記事などの検索もできます。大いに活用してください。

図書館の利用について思うこと

「一度は図書館の業務を経験することが出来れば…」。
漠然と思い描いていたことが、この4月の人事異動で図らずも実現することになった。図書館に配属されて半年が過ぎ、雰囲気にも慣れてきつつあるこの頃である。かつて、趣味は読書と語った時期もあったが、私自身学生時代に充分本を読んだとはおくびにも言い出せない。しかし、何かの情報を得たいときや関心のある事柄についての本が読みたいと思ったときなど、図書館はその意を惹きつけて要求に応えてくれる存在であった。

このたび、奇しくも、図書館という言葉が『情報の宝庫』に携わる機会を得たことは、これからの生涯教育を考えるときに時宜を得たという気がする。時代の要請とはいえ、本学の教育理念もそこを礎に地域に根ざす大学として、一般社会人の方への図書館開放を促しているといえるのではないかと思うところである。そして、世はまさに情報化時代の最中であってIT革命が次々進行中であり、人々は溢れんばかりの情報洪水の中にさらされている。今、これらの情報をいかに取捨選択するかが重要であり、図書館の主体的な活用こそがその手がかりになるのではないかと考える。

本学図書館は、現在およそ70万冊の蔵書数を抱え、一般図書・学術研究図書類のほかに視聴覚・AV資料等も充実している。利用者の要望に応え、インターネットやパソコンも使えるようサービスの便宜が図られているが、これをいかに活用していくか、その利用の仕方が問われることにもなると思われる。学生の皆さん、図書館をどのように活用していますか？ 無類の本好きで、読書に興じている人、レポート作成のため一時的に利用している人、就職試験のために連日勉強に励んでいる人、一方、AVコーナー専門に利用し

ている人もいるかもしれない。図書館の利用の仕方は様々であり、今後も大いにいろいろな形で利用してほしいと願っている。ただし、過去の統計によれば図書の貸出しという点においては、やや減少傾向が見られるようである。もっと“本を読む”ことの大切さが失われているような気がする。今、日本語ブームということで、たくさんの日本語に関する本が出版され、マスコミなどでも関連番組が放映されたりしている。レポート作成に際しても、手早いとばかりにインターネットのみに頼るのでなく、書物の中から考える力を読み取り、まとめることが必要なのではないだろうか。大学図書館は研究・教育の中核にあって、利用者の知的好奇心を高めてくれる場所ともいえる。私自身も改めて自戒の念を込めて感じていることのひとつである。

この数年、県下市町村でも見られるとおり図書館の普及が進んできている。折しも熊本市立図書館建設計画が検討されており、全国的にも変容しつつある図書館の果たす役割について論議されているようだ。長年、図書館の業務に携わって来られた方には到底及ぶべく考えは持ち合わせていないが、今後、でき得る限り大学図書館が機能性を発揮し、さらに利用しやすい図書館の環境づくりに貢献できればと心密かに思いをめぐらしている。

(奉仕課長 加茂田憲治)

注意 マナー遵守のお願い

最近、一部の利用者のマナー違反があとをたちません。言うまでもなく図書館は、皆さんの勉学、研究、自習活動のための利用を大いに期待するところですが、私語、飲み物の持ち込みなどの行為が禁止されているにもかかわらず、よく見かけられます。加えて携帯電話の使用(特にメール)が目立つようになり、多くの利用者から苦情が寄せられています。場所をわきまえて、静かな雰囲気の中で気持ちよく利用できるよう皆さんのご協力をお願いします。

図書館日誌 平成17年4月～11月

見学者

- 4.21 敬愛幼稚園PTA役員 23名
- 6.3 黒石原養護学校 10名
- 6.14 高森高等学校 17名
- 6.28 錦ヶ丘中学校PTA(熊本市)57名
大田大学校夏期学生研修団(韓国) 18名
- 7.4 日比谷学園高等部 熊本校 8名
- 7.7 阿蘇高等学校 67名
城北高等学校 42名
別府青山高等学校PTA(大分)57名
- 7.8 翔陽高等学校 9名
芥明高等学校 15名
- 7.11 南稜高等学校 37名
- 7.14 桂林旅游高等専科学校(中国) 7名
- 7.19 社会福祉法人 日生会バラ苑 3名
- 7.21 八代東高等学校 42名
- 7.26 御船高等学校 49名
第二高等学校 1名
- 8.3 荒尾高等学校 20名
- 10.5 開新高等学校 19名
- 10.12 湧心館高等学校 47名
- 10.16 福岡志文会 16名
- 10.21 国東高等学校(大分) 12名
- 10.22 宇佐高等学校(大分) 23名
- 10.27 千原台高等学校 24名
- 10.28 関西熊交会 10名
- 11.2 芥明高等学校 28名
- 11.8 厚生労働局 2名
- 11.9 北京第二外国語学院(中国) 2名
- 11.15 日本高等教育評価機構 8名
- 11.17 託麻原小学校(熊本市) 130名
植木北中学校(植木町) 17名
県立盲学校 2名

行事

- 4.5 入学式
- 4.6 新入生図書館オリエンテーション
- 4.18～6.13
図書館ガイダンス
- 5.31 図書館委員会
- 6.14 図書館委員会
- 6.22 図書館委員会
- 6.25 熊本地区保護者懇談会図書館開放
- 7.2 インターライブラリー
親善スポーツ大会
- 7.18 オープンキャンパス図書館開放
- 7.21～8.3
春学期定期試験特別開館
- 7.28 図書館委員会
- 8.4～9.25
夏期休業特別貸出
- 8.9 オープンキャンパス図書館開放
- 8.6 休館(台風接近による臨時休館)
- 9.7～9.9
帯山中学校ナイストライ
(職場体験実習)受入れ
- 10.7 学生懸賞論文募集締切
- 10.15～10.21
図書館実習(第1期)
- 10.22 オープンキャンパス図書館開放
- 11.1 図書館委員会
- 11.5 図書館公開フォーラム・
常世田良氏講演会
- 11.12～11.18
図書館実習(第2期)
- 11.20 休館(推薦入試)
- 11.22 学生懸賞論文選考委員会

図書館calendar 平成17年12月～平成18年1月

平成17年12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

12月23日は祝日(天皇誕生日)のため休館
12月27日～1月5日は年末年始一斉休業のため休館

平成18年1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月9日は祝日(成人の日)のため休館
1月21・22日は大学入試センター試験のため休館

図書館カレンダーは逐次更新されますので、
図書館のホームページおよび「としょかんニュース」
の最新号でお確かめ下さい。

大楠第37号をお届けします。原稿依頼に快く応じていただいた皆様
に感謝いたします。

今年もあと少しで終わろうとしています。毎年、時間は同じように過ぎ
ていきますが、「ものごと」は絶えず変化しています。

「ものごと」の変化に取り残されないようにしたいものです。

編集後記

大楠 第37号 2005年12月5日
編集・発行/熊本学園大学付属図書館
〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号
TEL (096) 364-5161 FAX (096) 362-5967
<http://www.lib.kumagaku.ac.jp/>